

平成28年度 第2回練馬区立美術館運営協議会 次第

平成29年3月23日（木）午後3時

於：サンライフ練馬3階 研修室

（審議事項）

1 平成29年度 事業計画（案）

（1）収支予算

（2）展覧会事業

（3）教育普及事業

（報告事項）

2 平成28年度事業報告（中間報告）

（1）平成28年度展覧会事業

（2）美術作品の収集事業

（3）広報活動と反響

3 美術の森緑地

（1）美術の森緑地リニューアル後の動向

4 その他

平成28年度

第2回 練馬区立美術館運営協議会

練馬区立美術館

(平成29年3月23日)

平成28年度 第2回練馬区立美術館運営協議会 目次

練馬区立美術館運営協議会委員名簿	1
練馬区立美術館運営協議会条例	3
1 平成29年度 事業計画（案）	
（1）平成29年度収支予算	5
（2）展覧会事業	
① 平成29年度展覧会事業日程（案）	6
② 19世紀パリ時間旅行—失われた街を求めて—	7
③ 漆膜の画家 太齋春夫展（仮称）	8
④ 生誕150年記念 藤島武二展（仮称）	9
⑤ 没後20年 麻田浩展—静謐なる楽園の廃墟—（仮称）	10
⑥ 小野木学の絵本原画展（仮称）	11
⑦ レイモン・サヴィニャック展（仮称）	12
（3）教育普及事業	
①平成29年度 教育普及事業計画（案）	13
2 平成28年度事業報告（中間報告）	
（1）展覧会事業	16
（2）美術作品の収集事業	18
（3）広報活動と反響	19
3 美術の森緑地	
（1）美術の森緑地リニューアル後の動向	25
4 その他	

第 16 期 練馬区立美術館運営協議会委員名簿

		氏 名	役 職
学識経験者	委員	栗津 則雄	文芸評論家
	委員	高橋 幸次	日大芸術学部美術学科教授
	委員	青木 茂	明治美術学会会長
	委員	伊豆井 秀一	元埼玉県立近代美術館 主席学芸主幹
	委員	佐藤 康宏	東京大学教授
	委員	島田 紀夫	実践女子大学名誉教授
	委員	内藤 正人	慶応義塾大学教授
練馬区議会議員	委員	かしま まさお	区議会議員
	委員	橋本 けいこ	区議会議員
	委員	岩瀬 たけし	区議会議員
	委員	土屋としひろ	区議会議員
公募区民	委員	前田 尚子	公募区民
	委員	須藤 麻世	公募区民
	委員	齋藤 宜子	公募区民
美術関係者	委員	伊藤 定夫	練馬・文化の会代表
	委員	島田 紘一 呂	練馬区美術家協会 会長
学校教育関係者	委員	江川 誠志	三原台中学校長
	委員	玉置 一仁	光が丘第八小学校教諭

練馬区立美術館運営協議会条例

昭和60年10月8日

条例第45号

(設置)

第1条 練馬区立美術館（以下「美術館」という。）の運営方針および事業計画を協議するため、練馬区立美術館運営協議会（以下「協議会」という。）を置く。

(所掌事項)

第2条 協議会は、区長の諮問に応じてつぎに掲げる事項について審議し、答申する。

- (1) 美術館の運営方針に関すること。
- (2) 美術館の事業計画に関すること。
- (3) 前2号に掲げるもののほか、区長が必要と認める事項

2 協議会は、前項各号に掲げる事項について、区長に意見を述べることができる。

(定数)

第3条 協議会は、委員19人以内をもって組織する。

(委員)

第4条 委員は、つぎの各号に定めるところにより、区長が委嘱する。

- (1) 学識経験者 8人以内
- (2) 練馬区議会議員 4人以内
- (3) 区民 3人以内
- (4) 美術団体関係者 2人以内
- (5) 学校教育関係者 2人以内

2 前項第3号に規定する区民は、公募により選任するものとする。

(任期)

第5条 委員の任期は、2年とする。ただし、委員に欠員が生じた場合における補充委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(会長および副会長)

第6条 協議会に会長および副会長を各1人置く。

- 2 会長および副会長は、委員が互選する。
- 3 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。
- 4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

第7条 協議会は、会長が招集する。

- 2 協議会は、委員の半数以上の出席がなければ、会議を開くことができない。
- 3 会議の議長は、会長が務める。
- 4 協議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは議長の決するところによる。
- 5 会長は、必要があると認めるときは、委員以外の者を会議に出席させ、意見を聴くこ

とができる。

(部会)

第8条 協議会は、第2条第1項に規定する事項について調査検討を行うため、部会を置くことができる。

2 部会は、会長の指名する委員をもって組織する。

3 部会は、協議会の求めがあったときは、必要な事項を報告しなければならない。

(庶務)

第9条 協議会の庶務は、地域文化部において処理する。

(委任)

第10条 この条例の施行について必要な事項は、練馬区規則で定める。

付 則

この条例は、公布の日から施行する。

付 則 (平成23年12月条例第53号)

この条例は、平成24年4月1日から施行する。

付 則 (平成26年12月条例第49号)

この条例は、平成27年4月1日から施行する。

1 平成29年度事業計画(案)

(1)平成29年度収支予算

(単位:千円)

経費種別	支出				収入			
		施設 管理費	事業費	人件費		指定管理 業務費	利用料金 物販等	その他
人件費	64,657	0	0	64,657	64,657	0	0	
美術館維持経費	84,457	84,457	0	0	82,990	1,467	0	
展覧会事業費	93,744	0	93,744	0	32,700	59,544	1,500	
教育普及事業費	3,308	0	3,308	0	2,958	350	0	
地域活動事業費	846	0	846	0	846	0	0	
練馬区立美術館 維持運営費 計	247,012	84,457	97,898	64,657	184,151	61,361	1,500	

(2) 展覧会事業

平成29年度 展覧会事業日程(案)

3階展示室			2階展示室		
会期	展覧会名	担当	会期	展覧会名	担当
4月16日 6月4日 <43日間>	【有料】 練馬区独立70周年記念展 『19世紀パリ時間旅行－失われた街を求めて－』				小野
6月9日 6月18日 <9日間>	【無料】 第63回練馬区美術家協会展		6月9日 7月14日 <31日間>	【有料】 『漆膜の画家 太齋春夫』展(仮称)	喜多
6月27日 7月14日 <16日間>	(一般貸出)				
7月23日 9月18日 <50日間>	【有料】 練馬区独立70周年記念展 『生誕150年記念 藤島武二』				加藤 小野
9月28日 11月19日 <46日間>	【有料】 練馬区独立70周年記念展 『没後20年 麻田浩展－静謐なる楽園の廃墟－』(仮称)				真子
11月26日 1月11日 <35日間>	(一般貸出)				
1月13日 1月17日 <4日間>	中学校生徒作品展		11月26日 2月11日 <62日間>	【無料】 『小野木学の絵本原画』展 (仮称)	真子
1月20日 1月25日 <5日間>	小学校連合同工展				
1月27日 1月28日 <2日間>	小中学校連合書きぞめ展				
2月3日 2月11日 <8日間>	【無料】 第49回練馬区民美術展				
2月22日 4月15日 <46日間>	【有料】 練馬区独立70周年記念展 『レイモン・サヴィニャック』(仮称)				小野

練馬区独立 70 周年記念展

19 世紀パリ時間旅行－失われた街を求めて－ 開催要項

- 1 開催趣旨 フランス文学者の鹿島茂氏（明治大学教授）による「失われたパリの復元」（『芸術新潮』連載）をもとに、「19 世紀の首都」パリの全体像に迫る展覧会を開催する。

パリの長い歴史の中で、もっとも衝撃的な出来事が第二帝政期（1852-70）に行われたパリ大改造である。しばしば「パリの外科手術」とも呼ばれるこの大改造は、時の皇帝ナポレオン 3 世（1808-73／在位：1852-70）の肝いりで、1853 年にセーヌ県知事に就任したオスマン男爵（1809-91）によって着手された。都市としての基本部分こそ大きな変化なく引き継がれたが、この大改造によってパリの景観は様変わりした。

1870 年代に入り、大手術を経たパリの景観は、印象派をはじめとした画家たちの格好の題材となった。それは新しいパリが、同時代の芸術家たちにとって創作の源泉と成り得たことを意味しており、言い換えれば、近代都市の成立は近代美術の形成とも連動していると指摘できるだろう。

本展では、大改造によって失われたパリの路地風景を版画におこしたアドルフ・マルシアル・ポテモン（1866 年）をはじめ、絵画や衣装など多様な美術作品を通して、パリの歴史を辿り、大改造以前・以後のパリを紹介する。
- 2 会 期 平成 29 年 4 月 16 日（日）～6 月 4 日（日）
- 3 主 催 練馬区立美術館、毎日新聞社
- 4 後 援 在日フランス大使館／アンスティチュ・フランセ日本
- 5 協 力 新潮社、公益財団法人 京都服飾文化研究財団
- 6 内 容 地図、書籍、ポスター、写真、版画、油彩画、彫刻、衣装など約 350 点
- 7 図 録 図録兼書籍として青幻舎より出版
- 8 観 覧 料 800 円
- 9 観覧者見込 16,340 人（380 人／日）
- 10 イベント 講演会（鹿島茂氏、喜多崎親氏、深井晃子氏）、ギャラリートーク（鹿島茂氏、学芸員）、ワークショップ、朗読と音楽の公演（出演：若村麻由美他）
- 11 担 当 学芸員 小野寛子

参考：関連企画

- (1) パリと音楽家たち 小林愛実ピアノ・リサイタル 5 月 20 日（土）練馬文化センター
- (2) フランス映画傑作選 6 月 3 日（土）鹿島茂氏トークあり、4 日（日）大泉学園ゆめりあホール
- (3) 五味康祐オーディオレコードコンサート ～フランス音楽の午後～ 4 月 22 日（土）
ふるさと文化館分室

漆膜の画家 太齋春夫展(仮称) — 開催要項

- 1 開催趣旨

太齋春夫は、1907年(明治40)、仙台市長町に生まれ、1932年(昭和7)、東京美術学校図画師範科を卒業しました。在学中より二科展に油彩作品を出品していましたが、東京美術学校で教授を務めた漆芸家六角紫水のすすめにより卒業後から漆の研究をはじめ、1933年(昭和8)、台湾総督府殖産局嘱託となり、ここで漆の研究に没頭します。翌年には、強度の高い漆膜の技法を開発し、この技法を用いて、工芸品の製作のみならず、純粹美術の領域である漆絵にも果敢に取り組みました。

1939年(昭和14)には、ニューヨーク万国博覧会にこれまで培った技法を活かし漆器の衝立を出品し、賞賛を博しました。将来を嘱望された太齋でしたが、1943年(昭和18)に応召を受け、翌年、中国の湖南省平江県において帰らぬ人となります。

工芸と美術の間をぬって活躍した太齋の活動は、昭和の美術の動向に新たな光を投げかけるものです。しかし、若くして亡くなったということもあり、残念ながらこれまでほとんど一般に知られておりません。

練馬区立美術館では、平成27年度に、ご遺族より太齋の作品・資料をあわせて100件以上のご寄贈を受けました。本展ではこれらの作品・資料を中心に、漆膜の画家太齋春夫の画業の一端をご紹介します。
- 2 会 期 平成29年6月9日(金)～7月14日(金)
- 3 主 催 練馬区立美術館
- 4 内 容 漆絵、漆絵モザイク等 50点
- 5 助 成 朝日新聞文化財団
- 6 図 録 制作予定
- 7 観 覧 料 300 円
- 8 観覧者見込 4,650 人 (150 人／日)
- 9 イベント 講演会、ギャラリートーク、ワークショップなどを予定
- 10 担 当 学芸員 喜多 孝臣

練馬区独立 70 周年記念展
生誕 150 年記念 藤島武二展 — 開催要項

- 1 開催趣旨

藤島武二は 1867 年（慶応 3）、薩摩藩士の 3 男として鹿児島県に生まれました。17 歳で上京、川端玉章、山本芳翠らの画塾に学び、三重県津市で中学校教員を 3 年間務めたのち、1896 年（明治 29）、黒田清輝の推薦で東京美術学校西洋画科の助教授に就任します。その後、晩年まで、白馬会や文展、帝展を舞台に話題作を発表し続けると同時に、アカデミズムの柱石として多くの後進を育てました。一方で、1913 年（大正 2）に初めて韓国を訪れて以後、東アジアの事物を意図的に取り上げるようになり、こうした新たな視点が画壇に大きな影響を与えました。二度にわたる皇室からの揮毫依頼、第 1 回文化勲章受章など、まさにわが国を代表する洋画家として活躍しました。

本年は、藤島武二の生誕 150 年という記念の年に当たります。今回の展覧会では、雑誌の挿絵や書籍の装幀などの業績を通して明治浪漫主義との関わりにもスポットを当て、また、初公開となる作品や資料を紹介し、藤島芸術の裾野の広さを再検証します。
- 2 会 期 平成 29 年 7 月 23 日（日）～ 9 月 18 日（月・祝）
- 3 主 催 練馬区立美術館、東京新聞
- 4 内 容 油彩画、スケッチ、資料など約 100 点
- 5 図 録 制作する
- 6 観 覧 料 1,000 円
- 7 観覧者見込 22,500 人（450 人／日）
- 8 イベント 記念講演会、ギャラリートーク、ワークショップ、コンサート ほか
- 9 担 当 学芸員 加藤陽介・小野寛子

※鹿児島市立美術館、神戸市立小磯記念美術館に巡回

練馬区独立 70 周年記念展

没後 20 年 麻田浩展 —静謐なる楽園の廃墟—（仮称） — 開催要項

- 1 開催趣旨 麻田浩（1931-97）は日本画家、麻田辨次を父に持ち、兄、鷹司（1928-87、2000 年に当館で回顧展を開催）も日本画家という美術家の一家に生まれた。同志社大学経済学部に入學するものの、画家への道は捨てきれず、新制作協会に出品、在學中に初入選を果している。

1971 年、39 歳のときにパリに渡り、渡欧前より傾倒していたシュルレアリスムから、より幻想的な風景画に、そして生涯を通して描く“水滴”のモチーフを用いるようになった。ヨーロッパ滞在期には主に版画に軸を置き、カンヌ国際版画ビエンナーレでグランプリを獲得するなど、フランス・ドイツ・ベルギーなどで個展を開催。また、滞欧中も新制作展や安井賞展などに大作を出品し続けた。

1982 年、50 歳で帰国。京都に戻り、京都市立芸術大学西洋画科の教授を務めながら、水滴や羽根などの自然物を配した「原風景」とともに、「原都市」と名づけられた美しき廃墟空間を描き続ける。1995 年には京都市文化功労者となり、同年に第 13 回宮本三郎記念賞を受賞するなど活躍を続けていたが、1997 年、65 歳で自ら命を絶つこととなった。

本年は麻田が没して 20 年という記念の年にあたる。初期から晩年まで、作品約 120 点の油彩、版画作品を通し、麻田の画業を振り返る展覧会となる。

- 2 会 期 平成 29 年 9 月 28 日（木）～11 月 19 日（日）
- 3 主 催 練馬区立美術館、日本経済新聞社
- 4 内 容 油彩・版画等資料も含め 約 120 点
- 5 図 録 制作
- 6 観 覧 料 800 円
- 7 イベント 講演会、ギャラリートーク、ワークショップ、コンサート
- 8 観覧者見込 16,100 人（350 人／日）
- 9 担 当 学芸員 真子 みほ

小野木学の絵本原画展（仮称） — 開催要項

- 1 開催趣旨

小野木学（1924-1976）は、その人生の半分を練馬区で過ごした地域ゆかりの人物であり、当館所蔵作家の中で最も所蔵点数が多い画家である。東京都豊島区に生まれた小野木は、旧制中学を在学中に肺を病んだことから、23歳頃画家として生きる道を意識するようになった。独学で絵画を学び、1953年自由美術展へ油彩画を初めて出品。以後自由美術展やアンデパンダン展などで活躍した。

一方1960年代から児童書や絵本への挿絵の仕事も多く、1970年には第19回小学館絵画賞（現・小学館児童出版文化賞）を受賞している。現在も出版されている創作絵本『かたあしだちょうのエルフ』は、71年の青少年読書感想文全国コンクール課題図書にも選ばれている。これまでも当館では、小野木の様々な仕事に焦点を当てた展覧会を開催してきたが、今回は当館所蔵の挿絵や絵本原画を中心に展示し、その仕事を改めて問う試みである。
- 2 会 期 平成29年11月26日（日）～平成30年2月11日（日・祝）
- 3 主 催 練馬区立美術館
- 4 内 容 絵本原画、油彩、パステル画など 約100点
- 5 助 成 花王財団
- 6 図 録 A5判48頁程度の冊子を作成・販売
- 7 観 覧 料 無料
- 8 イベント 講演会、ギャラリートーク、ワークショップほか
- 9 観覧者見込 12,400人（200人／日）
- 10 担 当 学芸員 真子みほ

練馬区独立 70 周年記念事業展

レイモン・サヴィニャック展（仮称） — 開催要項

- 1 開催趣旨 フランスを代表するポスター作家であるレイモン・サヴィニャック（1907-2002）の回顧展を開催する。
サヴィニャックは、第二次世界大戦後、フランスにおけるポスターの伝統であった装飾的な様式を一新し、ユーモアとエスプリにあふれ、瞬時に人の心を射抜くスタイルを編み出した。インパクトがあり陽気でシンプルなポスターは人気を集め、シトロエン、ミシュラン、モンサヴォン、ロレアルなど多くのフランスの広告主がサヴィニャックを起用し、街はサヴィニャックのポスターで溢れた。日本でも、その評判を聞きつけた広告主が、ポスターを依頼している。
本展では、フランスのフォルネイ図書館のコレクションを中心に、大型ポスターなどを含む 200 点近いサヴィニャックの作品群を一同に展覧する。併せて、サヴィニャックのポスターが写っている当時のパリの街角の写真や、書簡や写真などにより、ポスターというメディアを操った魔術師サヴィニャックの魅力を紹介する。
- 2 会 期 平成 30 年 2 月 22 日（木）～4 月 15 日（日）
- 3 主 催 練馬区立美術館、美術館連絡協議会、読売新聞社
- 4 後 援 在日フランス大使館／アンスティチュ・フランセ日本（予定）
- 5 協 賛 ライオン、大日本印刷、損保ジャパン日本興亜、日本テレビ放送網
サントリーホールディングス ほか
- 6 協 力 としまえん（予定）
- 7 内 容 ポスター、ポスター原画、書籍など 計約 200 点
- 8 図 録 制作
- 9 観 覧 料 800 円
- 10 観覧者見込 23,100 人（700 人／日）
- 11 イベント 講演会、ギャラリートーク、ワークショップ、コンサートなど
- 12 担 当 学芸員 小野寛子

※巡回予定：宇都宮美術館、三重県立美術館、兵庫県立美術館、広島県立美術館

(3) 教育普及事業

平成29年度 教育普及事業計画(案)

平成29年2月21日現在

館内事業

I) 展覧会関連 (各展覧会を楽しむ)

① 関連ワークショップ・講座

	事業名	開催予定日	回数	対象	定員
1	パリ展関連ワークショップ「未定」 講師:松田 かや(作家)	5月28日(日)	2	小学4年生以上	各回20名
2	太齋春夫展関連美術講座「未定」 講師:三田村雨龍(漆芸家)	6月	1	中学生以上	15名
3	藤島武二展関連美術講座「水彩画」 講師:板倉 知恵(画家)	8月	1 (2日間)	小学4年～中学3年生	20名
4	藤島武二展関連ワークショップ「未定」 講師:真子 みほ(当館学芸員)	8月	8	小学生	各回10名
5	麻田浩展関連美術講座「銅版画」 講師:岡 さなえ(版画家)	11月	1 (2日間)	中学生以上	16名
6	小野木学展関連ワークショップ「簡単しりとり絵本」 講師:真子 みほ(当館学芸員)	1月20日(土)・21日(日) 10:30～11:30、13:30～14:30、 15:30～16:30	6	小学生以上	各回8名
7	小野木学展関連美術講座「版画絵本」 講師:山口 茉莉(版画家)	1月	1 (2日間)	中学生以上	16名
8	サヴィニャック展関連ワークショップ「ポスターデザイン」 講師:中村 将大(東洋美術学校講師)	3月	1 (2日間)	中学生以上	20名

② ギャラリートーク

	事業名	開催予定日	回数	対象	定員
1	パリ展	4月21日(金)、5月25日(木) 15:00～	2	自由参加	—
2	太齋春夫展	6月	1	自由参加	—
3	藤島武二展	7～9月	2	自由参加	—
4	麻田浩展	9～11月	2	自由参加	—
5	小野木学展	11～2月	2	自由参加	—
6	サヴィニャック展	2～3月	2	自由参加	—

③ コンサート・ライブパフォーマンスなど

	事業名	開催予定日	回数	対象	定員
1	パリ展関連 朗読と音楽の公演 「ワルツ～カミーユ・クローデルに捧ぐ～」 出演:若村 麻由美 ほか	4月29日(土)、30日(日)18:30～	2	チケット購入者	—
2	藤島武二展	未定	未定	自由参加	—
3	麻田浩展	未定	未定	自由参加	—
4	小野木学展関連パフォーマンス	未定	1	自由参加	—
5	サヴィニャック展	未定	未定	自由参加	—

④ 鑑賞プログラム

	事業名	開催予定日	回数	対象	定員
1	太齋春夫展関連 トコトコ美術館 テーマ:モザイク	6月	6	3歳～6歳 +保護者 小学1・2年生 +保護者	各回5組

2	麻田浩展関連 あかちゃん鑑賞会 講師:未定	10月	2	0～2歳の赤 ちゃんとその 家族	各回 20名
3	小野木学展関連 トコトコ美術館 テーマ:とり	1月	6	3歳～6歳 +保護者 小学1・2年生 +保護者	各回 5組

⑤ 講演会など

	事業名	開催予定日	回数	対象	定員
1	パリ展関連特別講演会 「オスマン大改造以前・以後のパリについて」 鹿島 茂 (明治大学教授、フランス文学者)	5月13日(土)15:00～16:30	1	中学生以上	70名
2	パリ展関連特別講演会 「美術と建築から見るオペラ座」 喜多崎 親 (成城大学教授)	5月14日(日)15:00～16:30	1	中学生以上	70名
3	パリ展関連特別講演会 「パリジェンヌの発見—首都の華とモード」 深井 晃子 (京都服飾文化研究財団理事、名誉キュレーター)	5月20日(土)15:00～16:30	1	中学生以上	70名
4	太齋春夫展	未定	1	中学生以上	70名
5	藤島武二展	未定	1	中学生以上	70名
6	麻田浩展	未定	2	中学生以上	70名
7	小野木学展	未定	1	中学生以上	70名
8	サヴィニャック展	未定	2	中学生以上	70名

II) 美術講座 (美術に関する知識を学ぶ)

	事業名	開催予定日	回数	対象	定員
1	〈美術講座〉日本画 講師:未定	11月	1 (2日間)	中学生以上	16名
2	〈美術講座〉彫刻 講師:未定	2月	1 (2日間)	中学生以上	16名

III) 美術館を楽しむワークショップ(人が集う「場」作り)

	事業名	開催予定日	回数	対象	定員
1	四季のみじたくシリーズ33夏のみじたく 講師:未定	6月	1	小学4年生 以上	20名
2	美術館をつかまえる!?!館内探検とフロッタージュ 講師:真子 みほ (当館学芸員)	8月	4	5歳～ 小学2年生	各回 10名
3	四季のみじたくシリーズ34秋のみじたく 講師:未定	9月	1	小学4年生 以上	20名
4	四季のみじたくシリーズ35 冬のみじたく 講師:青山 佳世 (テキスタイルデザイナー)	11月	1	小学4年生 以上	20名
5	四季のみじたくシリーズ36 春のみじたく 講師:未定	3月	1	小学4年生 以上	20名

学校関連事業

I) スクールプログラム パンフレットを作成し各学校に配布。

① 団体鑑賞	美術館担当者がマナーの説明や展示解説を行い鑑賞のお手伝いをする
② 施設見学	各学校の学習目的に合わせて館内(バックヤードを含む)を案内し、施設を紹介する
③ 職場体験・訪問	受付や事務、監視、学芸などいくつかの仕事を体験させ、美術館全体の役割を伝える
④ 出張プログラム	担当者が学校へ赴きコレクションや開催中の展覧会に関連した授業のお手伝いをする

Ⅱ) ティーチャーズデイ

当館及び当館主催の展覧会を、授業等で活用していただくために、区内の小中高等学校の先生を対象とした展覧会鑑賞日を設ける。

各回ともに展示担当学芸員(または教育普及担当)による展示解説を30分程度行い、その後は自由鑑賞とする。平成29年度は6回開催する。

	展 覧 会 名
1	パリ展
2	太齋春夫展
3	藤島武二展
4	麻田浩展
5	小野木学展
6	サヴィニャック展

Ⅲ) スクールミュージアム

美術館の所蔵作品を学校の授業に役立ててもらうため、紙製の図版カード(トランプ大)、マグネットシート(A4版/A3版)、専用パネルの貸し出しを行う。これらのツールは、平成18年文化庁芸術拠点形成事業助成を受け、当館の所蔵作品から104点を選出し、作成された。

2 平成28年度 事業中間報告

(1) 展覧会事業

平成28年度 展覧会事業日程および観覧者数

(ア) 企画展等

開催期間	展覧会	開催 日数	観覧者目標 (1日当り)	観覧者実数 (1日当り)	目標比 (%)
4月17日(日) ～6月5日(日)	没後50年“日本のルソー”横井弘三の世界展	43	7,955 (185)	6,637 (154)	83.4%
7月3日(日) ～9月4日(日)	しりあがり寿の現代美術 回・転・展	55	11,000 (200)	11,682 (212)	106.2%
9月18日(日) ～11月13日(日)	「朝井閑右衛門展 空想の饗宴」	49	13,500 (276)	5,571 (114)	41.3%
11月19日(土) ～2月12日(日)	栗津則雄コレクション展 “思考する眼”の向こうに	69	8,970 (130)	4,626 (67)	51.6%
2月23日(木) ～4月9日(日)	田沼武能肖像写真展 時代を刻んだ貌 お蔵出し！練馬区立美術館コレクション展	40	7,200 (180)	7,200 (180) (見込)	100.0%
	合 計	256	48,625 (190)	35,716 (140) (見込)	73.5%
	前年度	259	70,840 (274)	100,216 (387)	前年度比 35.6%

(イ) 2階常設展示室によるコレクション展

開催期間	展覧会	開催 日数	観覧者目標 (1日当り)	観覧者実数 (1日当り)	目標比 (%)
6月10日(金) ～6月26日(日)	練馬区立美術館コレクション展 シリーズ時代と美術3 「1990～2000年代 辰野登恵子《Untitled92-8》を中心に	15	2,250 (150)	2,776 (185)	123.4%
	合 計	15	2,250 (150)	2,776 (185)	123.4%
	前年度	34	観覧者数 1日当り	3,400 (100)	前年度比 81.6% 185.0%

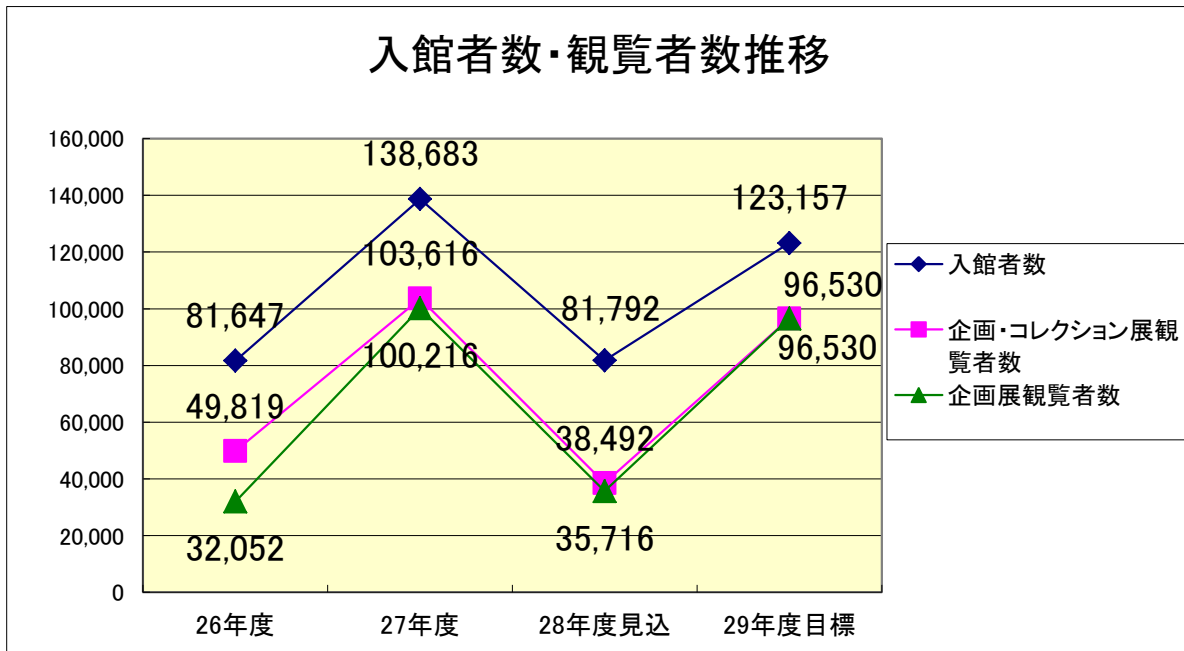
	27年度	28年度	前年度比
企画展・コレクション展観覧者数(実数)比較	103,616	38,492 (見込)	37.1%

(ウ) 各種展覧会

開催期間	展覧会	開催日数	観覧者実数 (1日当り)	
6月10日(金) ～6月19日(日)	第62回練馬区美術家協会展	9	1,855 (206)	
1月14日(土) ～1月18日(水)	中学校生徒作品展	4	3,423 (856)	
1月21日(土) ～1月26日(木)	小学校連合図工展	5	8,706 (1,741)	
1月28日(土) ～1月29日(日)	小・中学校連合書初め展	2	10,308 (5,154)	
2月4日(土) ～2月12日(日)	第48回練馬区民美術展	8	2,335 (292)	
合 計		28	26,627 (951)	前年度比 94.3%
前年度		28	28,230 (1008)	

入館者数比較	27年度	28年度	前年度比
	138,683	81,792 (見込)	59.0%

※平成28年度の入館者数は見込の数値となっています。



(2)美術作品の収集事業

平成27年度 美術作品の収蔵状況

(平成28年4月1日現在)

年度	日本画		洋画		版画		工芸		書		彫刻・立体		その他		計		合計
	購入	寄贈	購入	寄贈	購入	寄贈	購入	寄贈	購入	寄贈	購入	寄贈	購入	寄贈	購入	寄贈	
59	6		9	1			1	2							16	3	19
60	1	1	5	1		1				1					6	4	10
61		7	14	221	14	28								317	28	573	601
62	3	1	32	16	9	1							1	1	45	19	64
63	2	1	15	1	12										29	2	31
1	2		5	48											7	48	55
2	4	1	19	29	4	1									27	31	58
3	2	1	14	13											16	14	30
4	2	1	12	10	18	9									32	20	52
5	2		1	2											3	2	5
6	1	1	15	7		1				1					17	9	26
7	2	4	4	3		1					1				6	9	15
8	1	2	2	9	5	1									8	12	20
9			12	2	1	46									13	48	61
10	3	4	12	21											15	25	40
11		4	12	5		134									12	143	155
12		8		11											0	19	19
13				13											0	13	13
14		29		13											0	42	42
15		1	6	8	12	77									18	86	104
16		65		6											0	71	71
17		6		20											0	26	26
18		30		121		97								8	0	256	256
19		17		40				5			7		7	0	76	76	76
20		8		31		21									0	60	60
21		8		44		98					13			0	163	163	163
22		11		168		9							3		191	191	191
23		8		13							1		123		145	145	145
24		32		10		33									75	75	75
25															0	0	0
26		13	1	422		215					22		2084	1	2756	2757	2757
27		5		97		112		25					18	0	257	257	257
合計	31	269	190	1406	75	885	1	32	0	1	1	44	1	2561	299	5198	5497

平成28年4月1日現在
寄託作品 1464 点

購入・寄贈・寄託計 6,961点

(3) 平成 28 年度 広報活動と反響

1 広報活動の取り組み

《方針》多様な媒体を利用し、周知・集客に努める。

コレクションを使った常設展（小規模展）の広報も積極的に行う。

(1) 展覧会のチラシ・ポスターの制作・配付

(2) 「美術館ニュース」の発行（年 1 回）

(1)、(2)は全国美術館、関係者、区内施設等に発送。

展覧会のポスターは、町会掲示板にも掲出依頼。

(3) 美術館ホームページ

平成 23 年 7 月からブログ開始。

平成 27 年 4 月 1 日から区のページとは別に、練馬区文化振興協会による美術館ホームページを新たに開設。最新の情報をいち早く発信するとともに、過去の展覧会情報やイベントのレポートなど、これまでの美術館の活動の情報も充実させ、区の時代以上に情報発信ツールとして活用している。

(4) マスコミへの情報発信

新聞・雑誌・地域コミュニティ紙・ウェブサイト等にプレスリリースを発信し、主に掲載料無料のものを利用している。

28 年度の横井弘三の世界展、しりあがり寿の回・転・展、朝井閑右衛門展、粟津則雄コレクション展、田沼武能肖像写真展・お蔵出し！コレクション展で美術関係の PR 会社にリリース配信を委託。

(5) 交通広告

年間を通して中村橋駅に案内看板を設置。

企画展覧会によってポスターの駅貼り広告等を実施。

平成 27 年度に引き続き、28 年度もみどりバスへのポスター掲出を実施。

(6) その他

ぐるっとパス 平成 23 年度から実施。

ミュージーぽん 平成 22 年 12 月 2 日から実施。

館長 TV、RA 出演

(TV) J:COM 『練馬人図鑑』 12 月前半 23 回放映

(RA) NHK（全国放送）

・マイあさラジオ 4 月 24 日

・ごごラジ 5 月 17 日

2 平成 28 年度展覧会に対する反響

(1) 没後50年“日本のルソー” 横井弘三の世界展

(平成 28 年 4 月 17 日～6 月 5 日)

<p><テレビ></p> <p>NHK 新日曜美術館 2 月 22 日、3 月 1 日 (再放送)</p> <p>TOKYO MXTV 「美術館へ行こう」 4 月 23 日</p>	
<p><ラジオ></p> <p>TOKYO FM ブルーオーシャン 4 月 13 日</p>	
<p><新聞></p> <p>日本経済新聞 2 月 5 日夕刊 15 日朝刊 3 月 15 日朝刊 3 月 31 日夕刊 4 月 2 日夕刊 4 月 19 日朝刊 5 月 7 日夕刊</p> <p>東京新聞 4 月 18 日朝刊 東京新聞ほっとなび</p> <p>読売新聞 4 月 23 日朝刊</p> <p>産経新聞 4 月 16 日</p> <p>朝日新聞 4 月 1 日、15 日夕刊</p> <p>房日新聞 4 月 27 日 函館新聞 4 月 25 日</p> <p>徳島新聞 5 月 9 日</p>	
<p><美術雑誌></p> <p>一枚の繪 5 月号</p> <p>美術の窓 4、6 月号</p> <p>展覧会ガイド</p> <p>芸術新潮 4 月号</p>	<p><雑誌></p> <p>東京人 5 月号</p> <p>週刊文春 6 月 4 日号</p>
<p><地域情報誌></p> <p>メディ・あさお 5 月号</p> <p>「池袋 15'」 4 月号</p> <p>定年時代 4 月下旬号</p> <p>池袋情報誌びいーゆ 4 月号</p> <p>月刊武州路 4 月号</p>	<p>茨城フリーペーパー月刊 ezpress 4 月号</p> <p>asacoco 4 月号</p> <p>ぱど 3 月 27 日号</p> <p>ネリクリ 04</p> <p>月刊 Kacce 4 月号</p>
<p><WEB></p> <p>日本美術倶楽部</p> <p>インターネットミュージアム</p> <p>ぶらり美術館</p> <p>練馬経済新聞</p> <p>G-Call</p> <p>個展なび</p> <p>ART 公募</p>	<p>Media & Communication</p> <p>Migle</p> <p>ぴあポイントサイト</p> <p>ちらしミュージアム</p> <p>ミュージアムカフェ</p> <p>青い日記帳</p> <p>はろるど</p> <p>クラブ・ウィルビー 他</p>

(2) 練馬区立美術館コレクション展 シリーズ時代と美術 4 「1990～2000 年代
辰野登恵子《Untitled 92-8》を中心に」

(平成 28 年 6 月 10 日～6 月 26 日)

<p><新聞> 新美術新聞 (6 月) 毎日新聞 (6/7 朝刊) 東京新聞 (6/9 朝刊)</p>
<p><地域情報誌> 月刊 Kacce6 月号</p>
<p><WEB> 和楽 (WEB マガジン) ニッポンの美 術館 100 イマコレ (小学館) 他</p>

(3) しりあがり寿の現代美術 回・転・展

(平成 28 年 7 月 3 日～平成 28 年 9 月 4 日)

<p><テレビ> BS 朝日 7 月 18 日 (月曜・祝日) 23:54～24:00 「ぷ知蔵」 / 展覧会告知映像 テレビ朝日 スポット CM BS 朝日 スポット CM</p>	
<p><新聞> 東京新聞 6 月 30 日ほっとなび、8 月 5 日夕刊 毎日新聞 6 月 28 日美術館ガイド、7 月 20 日夕刊 朝日新聞 6 月 10 日マリオン読者プレゼント、6 月 28 日、6 月 28 日美術館ガイド、 7 月 3 日、7 月 12 日夕刊、7 月 20 日、8 月 2 日夕刊、8 月 5 日夕刊 産経新聞 7 月 14 日 都政新報 7 月 26 日 日経新聞 8 月 3 日夕刊 公明新聞 8 月 27 日</p>	
<p><美術雑誌> 美術の窓 7 月号 月刊ギャラリー 7 月号 月刊美術 8 月号 美術手帖 8 月号 美術手帖 (レビュー) 9 月号 月刊展覧会ガイド (首都圏) 7-8 月号</p>	<p><雑誌> メンズノンノ 7 月号 Casa BRUTUS 7 月号 レタスクラブ 7 月 10 日号 UOMO 8 月号 懸賞なび 7 月号 Anan 7 月 20 日号 テレビブロス 7 月 30 日号 戦国武将列伝 8 月号 ブレーン 8 月号 装苑 8 月号 FUDGE 9 月号 MOE 9 月号発売号</p>

	Pen 9月1日 SPA 8月2日号 女性セブン 9月15日発売号 NYLON 10月号 キャラクターランド 夏号
<地域情報誌> Ezpress 7月号 月間 Kacce 7月号 池袋びいーゆ 7月号 池袋'15 8月号 ロコム 8月号	<メールマガジン> 日経 DUAL テレビ朝日メールマガジン
<WEB> TOKYO ART BEAT SPICE art scape(アーツスケープ) ねとらぼ タイムアウト東京 レッツエンジョイ東京 個展ナビ Art Agenda CINRA.NET FASHION HEADLINE G-Call ニッポンの美術館 100 イマコレ インターネットミュージアム club will be ホームページ ぴあポイントサイト ぶらり美術館 SharArt 美術 ACADEMY&SCHOOLブログ 練馬経済新聞 テレビ朝日 touch!★テレアサ ブログ 講談社「おとなスタイル」今日は何の日？	Art Life Museum the Net クリエーター館 Casa BRUTUS オンライン 練馬アニメーションサイト THE PAGE ぐるっとパスナビ ぐるっとパスブログ JR おでかけネット ミュージアムカフェ リクルート「R25」スマホ版 クリエイターズステーション WWD コンフォルト web 版 ブレーン web マガジン イベニア HEAPS media 版 T-SITE Lifestyle Dokka!おでかけ探検隊 東京の観光公式サイト GO TOKYO 青い日記帳 今見られる全国のおすすめ美術館 100 和楽公式サイト 他

(4) 朝井閑右衛門展 空想の饗宴

(平成 28 年 9 月 18 日～平成 28 年 11 月 13 日)

<p><テレビ></p> <p>NHK Eテレ 10月9日(日)9:45~10:00「日曜美術館・アートシーン」</p> <p>J:COM 10月16日~10月30日 ねりまホットライン</p>	
<p><新聞></p> <p>読売新聞 8月29日朝刊、10月26日朝刊、10月29日朝刊、11月1日朝刊</p> <p>産経新聞 10月6日朝刊</p>	
<p><美術雑誌></p> <p>美連協ニュース 8月号</p> <p>美連協ニュース 11月号</p> <p>美術の窓 9月号</p> <p>月刊美術 9月号</p> <p>美じょん新報 9月20日号</p> <p>美じょん新報 10月20日号</p> <p>一枚の繪 11月号</p> <p>東京ミュージアム散歩(mook)</p>	<p><雑誌></p> <p>武州路 10月号</p>
<p><地域情報誌></p> <p>月間 Kacce 9月号</p> <p>池袋びいーゆ 10月号</p> <p>池袋'15 9月号</p>	
<p><WEB></p> <p>TOKYO ART BEAT</p> <p>レッツエンジョイ東京</p> <p>個展なび</p> <p>Art Agenda</p> <p>CINRA.NET</p> <p>harArt</p> <p>美術 ACADEMY&SCHOOLブログ</p> <p>練馬経済新聞</p>	<p>Art Life Museum the Net クリエーター館</p> <p>Casa BRUTUS オンライン</p> <p>THE PAGE</p> <p>ぐるっとパスナビ</p> <p>ぐるっとパスブログ</p> <p>ミュージアムカフェ</p> <p>クリエイターズステーション</p> <p>Dokka!おでかけ探検隊</p> <p>東京の観光公式サイト GO TOKYO</p> <p>青い日記帳</p> <p>和楽公式サイト</p> <p>他</p>

(5) 栗津則雄コレクション展 “思考する眼”の向こうに

(平成28年11月19日～平成29年2月12日)

<p><テレビ></p> <p>J:com「デイリーニュース(練馬・新座・和光)」11月30日18:00～18:20</p>	
<p><新聞></p> <p>信濃毎日新聞 12月15日 日本経済新聞 12月5日・1月5日・2月2日 朝日新聞マリオン 11月29日 都政新報 2017年1月20日号</p>	
<p><美術雑誌></p> <p>美術の窓 2016年2月号 美術の窓 2016年12月号 月刊ギャラリー11月号 美じょん新報10月20日発行 新美術新聞 12月21日号 芸術新潮(展覧会情報欄)12月号 ギャラリー(スケジュール欄) 12月号 美術手帖(ART NAVI)12月号</p>	<p><雑誌></p> <p>サンデー毎日2016年12月20日発売 東京人 2017年2月号</p>
<p><地域情報誌></p> <p>池袋15' 12月号</p>	<p>月刊ezpress 12月号</p>
<p><WEB></p> <p>アートアジェンダ G-CALL ShareArt 個展なび アートサイト miple</p>	<p>キャリア・ママ ナビタイムジャパン ぶらり美術館 和楽「ニッポンの美術館 100 イマコレ」 他</p>

3 美術の森緑地

(1) 美術の森緑地リニューアル後の動向

① 現況

平成27年3月30日に「幻想美術動物園」をコンセプトにリニューアルオープン、天然芝と20種類32体の動物を中心とした彫刻群が人気を呼び、開園以来、延べ141万人※（平成29年2月末日現在）の方々に利用いただいた。年間ベースでは練馬区の人口を上回る述べ75万人※の利用が見込まれ、「練馬の新しい名所」になりつつある。マスコミでも注目され、昨年は「アド街ック天国」を始めTV番組の紹介、共同通信発で多くの地方紙や雑誌にも取り上げられた。

彫刻は、触ってもいい、坐ってもいい「遊べるアート」として、道は「歩けるアート」として制作・設置したが、狙い通り、連日、親子連れを中心に「老若男女」で賑っている。

※緑地内2箇所に設置したカウンターの累計

② 来園者数推移

平成28年4月	61,418人
5月	61,382人
6月	54,903人
7月	61,915人
8月	55,149人
9月	54,957人
10月	58,513人
11月	55,458人
12月	50,100人
平成29年1月	84,973人
2月	26,865人
累計	625,633人

③ グッズの開発・販売

平成27年8月から、動物デザインのグッズを販売
(ポストカード、クリアファイル、トートバッグ、マグカップ)